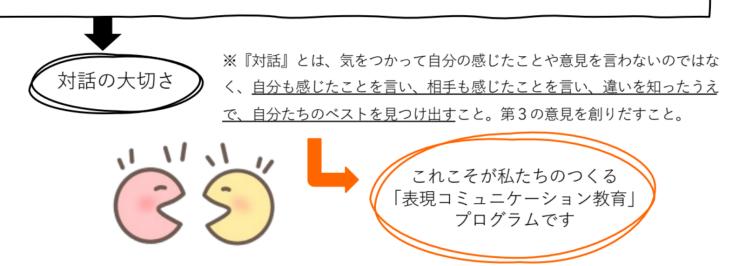
子どもたちの実態



- ・新型コロナウイルスの期間を経て、人との関わり合いや自分の考えを表現することをなかなか身につけられてこなかった子たちが多い
- ・失敗したくない子が多い。怖い・心配・わからないことや困ったことを言えず、 SOSを出せない。
- ・今、『多様性』を受け入れることを大切にしているけれど、いろいろ気をつかって窮屈でもある。『いい人』でいようとすると息苦しい。



軽井沢町が実施している「表現コミュニケーションLab.」のページより抜粋 作成者 清水みき枝



く授業に取り組んだ。町では ひ」に採択され、

> と、友だちをおんぶしたり グマになった」と声をかける

った男子児童は「唐揚げの何 窓枠に逃げたり。床に寝転が

「仲間の考えを知ったり自分

県と県教育委員会による事業

をつくる課題などに取り組

「お題」に沿った写真の構図

アートの手法を活用した学

生かすこともできる」

り年生を対象に実施する。 ファシリテーターの中沢聖子 れた授業は、俳優で演劇教育 22日に軽井沢中部小で行わ

切。地元の人材(指導者)を を表現したりすることは大 社に委託し、1年目は各校の に拡大。授業は町内の企画会 **萎こども教育課)と、本年度** ば町単独事業として3小学校 3組の土屋紗英さん(10)は ることができる」と中沢さん 分と言って関りを笑わせた 学年を増やし、軽井沢中学校 計画。町は来年度以降、対象 課題ができた」と話していた もたちが自分自身に問いかけ したため、「授業の中で子も いろんなことを想像しながら 一みんなの意見を尊重して、 2時限分の計9分間を確認 授業は本年度、

各校で行われ、児童たちは友だちと協力して課題に挑んだ めた。遊びや演劇の要素を取り入れた最初の授業が7月に り、笑顔で体育館を走り回ったりと、生き生きとした表情 創作力を養う目的の「表現コミュニケーション授業」を始 軽井沢町は本年度、 町立の全3小学校で児童の表現力や

進する「アートの手法を活用 **) 関劇などの手法を通じてコミ** 一日、県と県教育委員会が推 た学び」の授業があった。 伝え方向上

軽井沢高校(軽井沢町)で ション能力磨く授業

100

発見が多かった」と笑顔

16)は「話したことがなかっ

に人のことも知ることができ

に生徒の笑い声が響いた。 情は時間とともに緩み、 を育む狙いで、 人が参加。 3グループに分かれ、東信 最初は硬かった表

諭(41)は「生徒の表情がみる は1月中に計3回の授業を行 方法を学んで実践できるよう 三校を募り、 める変わった。教員側も指導 料 沢 高校が初めて。 同校で 県は2022年から参加希 同校の佐藤真平教 高校での実施は

シリテー を人さし指で支え合って歩く 2人一組で割り箸 悪戦苦闘するグル ら3人が進行役 川田亜依さん すいすいと進

軽井沢町が実施している「表現コミュニケーションLab.」のページよ り抜粋 作成者 清水みき枝

地方で活動する演劇教育ファ